



—松尾芭蕉がみた石巻—

金華山
黄金山神社本殿
宮城県



平山郁夫《金華山 黄金山神社本殿》部分 1997年（朝日生命保険相互会社所蔵）

平山郁夫が
描いた
「奥の細道」

2022年

5月20日(金)〜6月26日(日)

開館時間 午前9時〜午後5時（入館受付は午後4時30分まで）

休館日 月曜日

会場 石巻市博物館 企画展示室

主催 石巻市博物館
 共催 公益財団法人石巻市芸術文化振興財団
 監修 武蔵野美術大学教授 加藤幸治
 協力 平山郁夫シルクロード美術館 平山郁夫美術館
 後援 東北放送 ミヤギテレビ Kihō 東日本放送 奥の細道
 N天 仙台放送局 河北新報社 三陸河北新報社（石巻かほく）
 石巻日日新聞社 ランチョ石巻 FM76.4
 企画展示室
 観覧料 一般800円 高校生500円 小中学生300円
 ※上記料金で常設展も観覧できます。
 ※20名以上の団体は2割引
 石巻市博物館 〒986-0032
 宮城県石巻市開成1-8（パルホンまきあーとテラス内）
 問合せ先 0225-98-4831



石巻市
博物館
ISHINOMAKI
CITY MUSEUM

<https://makiart.jp>

描かれた“ふたつの道”をあるく展覧会

「歌枕の地」をみちのくに訪ね、漂泊のなかで俳諧をみがいていった松尾芭蕉。

「仏教伝来の道」をシルクロードに訪ね、画業の原動力にしていった平山郁夫。

シルクロードの画家として広く知られた日本画家平山郁夫は、時代が平成に入ったころから日本の「路」をテーマとして日本各地を旅しました。本展示で一堂に展示する「奥の細道」と「平泉」の一連の作品もそのひとつです。

平山郁夫が円熟期に日本の原風景を描いた動機には、つぎの二つを見いだすことができます。そのひとつは、開発によって歴史ある風景が失われることへの危惧でした。日本の誇るべき自然と文化を描いて残したいという想いは、世界の文化遺産の保存のために尽力した「文化財赤十字」の活動への熱意へとつながっています。もうひとつは、シルクロードから奈良へと辿ってきた「仏教伝来の道」が、さらに日本文化として浸透し、成熟していく過程へのまなざしがあります。東北は「仏教伝来の道」の東の終着地でもありました。

平山郁夫は生涯を通じて文化財保護に尽力し、東日本大震災における文化財レスキュー事業についても「文化財赤十字」の活動を支援する公益財団法人文化財保護・芸術助成財団の助成により実施されました。震災からの復活を遂げ再スタートした石巻市博物館において、平山郁夫の画業とともに、平山郁夫が描いた「奥の細道」、松尾芭蕉がみた石巻について紹介します。

特別陳列(初公開)「牡鹿郡石巻全景眺望図」



今回の展示では、石巻の歌枕の地の参考資料として、当館所蔵「毛利コレクション」から「牡鹿郡石巻全景眺望図」を特別陳列します。

関連イベント トークセッション

平山郁夫があるいた「路」

—シルクロードから奥の細道まで—

パネリスト 加藤幸治 武蔵野美術大学 教授
幸野昌賢 平山郁夫美術館 学芸員
大塚裕一 平山郁夫シルクロード美術館 学芸員

日時 2022年6月11日(土) 13:00~15:00

場所 マルホンまきあーとテラス 小ホール

定員 150名

参加費 無料(申込不要、当日会場へお越しください。)

[チケット情報]

一般：800円 高校生：500円 小中学生：300円

※上記料金で常設展も観覧できます。※20名以上の団体は2割引

[アクセス方法]

〒986-0032

宮城県石巻市開成 1-8 (マルホンまきあーとテラス内)

●公共交通をご利用の場合

石巻駅→マルホンまきあーとテラス

タクシー

石巻駅前タクシー乗り場から乗車で約10分

路線バス

石巻駅前3番乗り場から石巻専修大学線に乗車で13分

総合運動公園(石巻)下車 徒歩約2分

●お車でお越しの場合 駐車場無料

三陸自動車道 石巻女川ICより約5分

